

# 新しいことを習得しつつ、さかのぼりを ～ピンチの算数をこう切り抜ける～

いろえんぴつ(加印)

岸本 ひとみ

## 1日2時間？！

4月に新しい指導要領に基づく新しい教科書を受け取りました。算数の教材配列を見て、「これはたいへん！！積み残しが出るだろうな・・・。さて、どうしよう。」と直感的に思いました。「1日2時間やっています。」「1単元2学期に回しました。」などなど。あちこちの学校から悲鳴が聞こえてきます。

## 配列の見直しと自主編成

まず、1学期に残ってしまった単元と2学期以降に学習する単元とを全部を見てみます。下の教科書と指導書は遅くとも8月下旬には届くはずですから、夏休みの間にそれをじっくりと見て、計画を立てます。国語では、公開授業のために教材の配列を変えることがよくあります。それを算数にも応用すればかなり子どもたちの負担が軽くなります。

ただ、国語と算数の違うところは、計算領域などは1学期に学習したことを前提に2学期が組み立てられているので、この部分はあまり入れ替えられないということです。

### ①学年で考える

自主編成で一番やりやすいのは、学年ぐるみで調整することです。例えば、3年生の「円と球」は啓林館版だと1学期に出てきていますが、コンパスの使い方や球のイメージの捉え方が難しいことを考えると、2学期以降に学習する法がよりスムーズで配当時間も少なくすすみます。4年生の「計算の順序」も、( )の使い方と四則計算の順序を覚えなくてはいけないので、やはり落ち着いて学習できる秋口に回す方がいいのです。

また、行事との兼ね合いも検討しなければなりません。秋に運動会がある学校と春に終わっている場合は違います。音楽会がある、研究発表会がある、などの大きな行事のある月に、ポイントとなる単元をぶつけないようにします。運動会の練習をしながら、5年生の分数の通分や約分の学習を進めることなどは、罪つくりなだけです。

### ②学校全体で考える

今回の指導要領の改訂は名前だけ「スパイラル形式」になっています。もっとも極端な例が「分数」です。

2年生・・・2つに分けた1つ分= $1/2$ 、4つに分けた1つ分= $1/4$

3年生・・・分数の概念、 $1/2$ や $1/3$ の表し方と大小関係、同分母の分数の加減算

4年生・・・真分数、仮分数、帯分数の意味、帯分数 $\Leftrightarrow$ 仮分数、同分母分数の加減算

5年生・・・約分・通分、分数と小数の関係、分数の加減算の完成

6年生・・・分数の乗除算、逆数の意味

<2年生>

・ $1/2$ =テープを折って半分の大きさをつくり、その表し方を考えることができる。

・ $1/4$ =テープを折って半分の半分の大きさをつくり、その表し方を考えることができる。

となっています。だいたいの教科書が3学期に配当してあります。

<3年生>

- ・数としての分数、 $5/5=1$
- ・分数を数直線上に表すこと
- ・同分母分数の加減計算

もちろん、 $1/3$ や $2/3$ の大小関係も学習します。

このようにブツ切れになって出てくるため、各学年の内容を何とか理解しても、忘れた頃に新しい内容が加わるため、また一から復習をしてとりかからなければならない変なスパイラルになってるのです。

そこで、2年生と3年生の内容を、まとめて学習する方が子どもの発達段階に合っているのではないかと考え、2年生での扱いを軽くし、3年生でじっくり時間をかけて学習するように進めることにします。その代わりに2年生ではかけ算九九の習熟に時間をかけるようにします。

学校全体で、同じように領域別に検討を加えていくと、内容の精選にもつながりますし、自分の担当学年以外の内容についてもよくわかるため、算数の校内研修としても歓迎されます。

### ③自分のクラスだけで考える

学年で、学校全体で検討を加えて進めていけばいいのですが、なかなかそこまでは難しいということがほとんどだと思います。そういう時は、単元によって到達目標を変えることで、かなり子どもたちも教師自身の負担感も軽減されます。1年間の教材と単元配列を見直すことは同じですが、この内容は子どもたちの実態に合っていないと感じた時には、80%の子どもに理解と習熟をという目標を60%ぐらいまで下げるのです。この単元はA、こちらはBというように、教材に軽重をつけて、ポイントとなる事項に時間をかけて進めるようにします。

Aの単元の次はBかC（軽く扱うもの）がくるように調整しておく、Aの復習をしながらBやCの学習を進めることができます。この時気をつけなければいけないのが、評価です。市販の評価プリントや市全体で統一したものを使用しなければならない場合は、軽く扱う教材の場合、あらかじめ評価項目を見ておいてそれに合わせて学習を進めます。

### さかのぼり指導と新しい学習内容を同時進行で

学力研では、「さかのぼり指導」を大切にしています。前学年までで充分習熟できていなかった部分についての指導を進めることで、基礎をより強固なものにするという考え方です。計算タイムを時間割りの中に位置づけて基礎計算を進めている学校もあります。その中に、1学期にうまくいかなかった教材の復習を組み込めば、わかってないなと思いながらも進めてしまった事項の習熟につながります。

新指導要領に変わったことで、さかのぼり指導の重要性がより明確になってくると思います。次々と内容をこなしていくだけで、修得や習熟なんてとんでもないという1学期を過ごしたみなさん。ぜひここで思い切って算数の時間の最初5分間を、さかのぼり指導に充てて、子どもたちに力をつけていきましょう。45分のうち5分もそれに充てたら、よけい授業が進みにくくなるのではとお考えの方もあるかもしれませんが。この5分間はボディブローのようにじわじわと効いてきます。1カ月2カ月で効果は出なくても、半年も続ければ「回りの道のように早道」だということを実感できますよ。

★詳しくは 10月9日（日）の算数部会にて★